

発行年月日：令和5年10月20日  
発行：渋谷区教育委員会事務局

住所：〒150-8010 渋谷区宇田川町1番1号 区役所4階  
問い合わせ先：☎03-3463-2795 ✉sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

## 第二回「代々木中学校建て替え準備委員会」を実施しました

### はじめに

第二回委員会では、第一回の続きとなる配置・配棟に関する検討と新たに建物高さに関する検討状況を共有しました。  
また、必要諸室の概要や普通教室、ラーニング commons の使い方を先行事例のイメージを交えて紹介し、これからの主体的・協働的な学習や探究的な学習に対する学習空間の在り方について意見交換を行いました。

### 第二回委員会 議題

- ① 学校施設の配置・配棟に関する検討について
- ② 学校施設の建物高さに関する検討について
- ③ 学校施設の必要諸室の考え方について
- ④ 事例紹介
- ⑤ 意見交換

第二回委員会実施日時等  
実施日時：令和5年9月13日（水）  
14時～15時  
会場：代々木中学校 第一会議室

### ① 学校施設の配置・配棟に関する検討について

5つの配置案に対し、評価項目に近隣影響（音環境）を加え、比較検討を報告しました。最もメリット評価の多かった案③の校舎配置により今後の計画を進めてまいります。

	既存諸案	案① グラウンド北東側配置	案② グラウンド南西側配置	案③ グラウンド東側配置	案④ グラウンド西側配置
教室配置	片廊下型、計画の自由度が低い	中廊下型	片廊下型、計画の自由度が低い	コの字、□の字型、計画の自由度が高い	コの字、□の字型、計画の自由度が高い
生徒の動線	コの字型配置により、教室間や体育館への動線が長い	し字型配置により、教室間や体育館への動線が長い	し字型配置により、教室間や体育館への動線が長い	校舎が集約されているため、教室間や体育館への動線が短い	校舎が集約されているため、教室間や体育館への動線が短い
体育館の規模	北側は高さ制限により大規模な地下化が必要	地上に設置可能	北側は高さ制限により大規模な地下化が必要	地上に設置可能	地上に設置可能
近隣影響（日影）	北側・西側近隣建物に日影がかかる	北側一部・西側近隣建物に日影がかかる	北側・西側一部の近隣建物に日影がかかる	北側一部・西側近隣建物に日影がかかる	北側一部の近隣建物に日影がかかる
近隣影響（音環境）	南側の一部近隣建物にグラウンド騒音の問題が生じる可能性がある	北側近隣建物にグラウンド騒音の問題が生じる可能性がある	西・南側近隣建物にグラウンド騒音の問題が生じる可能性がある	北・南側の一部近隣建物にグラウンド騒音の問題が生じる可能性がある	南・北の一部、西側近隣建物にグラウンド騒音の問題が生じる可能性がある
グラウンドの規模	100m直線走路：× 200mトラック：○ サッカーコート：○	100m直線走路：○ 200mトラック：○ サッカーコート：○	100m直線走路：× 200mトラック：○ サッカーコート：○	100m直線走路：○ 200mトラック：○ サッカーコート：○	100m直線走路：○ 200mトラック：○ サッカーコート：△
グラウンドの日影	南側に校舎がないため、良好な日照が得られる	南側に校舎があるため、日照が悪い	南側に校舎がないため、良好な日照が得られる	南側に校舎がないため、良好な日照が得られる	南側に校舎がないため、良好な日照が得られる

### ② 学校施設の建物高さに関する検討について

本敷地において、建設可能なパターンをそれぞれ必要となる法令手続ごとに分類しました。A案は、「用途地域の制限どおり」に10m以下とした場合、B案は「認定申請」により12m以下とした場合、C案は「許可申請」により15m程度とした場合です。それぞれ断面イメージと6つの評価項目により、メリット、デメリットを紹介し、意見交換を行いました。最もデメリット評価の少なかったC案で今後の計画を進めてまいります。

	A案 (建物高さ10m以下)	B案 (建物高さ12m以下)	C案 (建物高さは既存以下)
建物断面イメージ			
建物規模	地上：2階 地下：なし	地上：3階 地下：2階	地上：3階 地下：1階
教育環境	オープンスペースの設置が難しい 既存校庭以上の広さを確保できない	オープンスペースの設置が可能 既存校庭以上の広さを確保できる	オープンスペースの設置が可能 既存校庭以上の広さを確保できる
手続き	高さに伴う申請業務が不要	高さに伴う「認定」申請が必要	高さに伴う「許可」申請必要 ※B案より要件が厳しい
工期	地下がないため、工期は短い	地下2階層のため、工期が長い	地下1階層のため、B案より工期が短い
コスト	地下掘削がないため、コストが低い	地下掘削があるため、コストが高い	高さがあるため、地下掘削はB案より少ない
その他	必要諸室が取まらない	体育館への生徒動線が長くなる 災害時の避難所運営が行いにくい	建物が高いため、日影の影響について近隣への配慮が必要

Q A案は地下を作れないのでしょうか？

A A案においても地下を作ることは可能です。但し、生徒が使用する教室には、外部からの採光が必要となるため、地下とできるのは体育関連諸室となります。

Q C案は、既存と同じ高さなのに近隣に対する日影の影響に配慮する必要があるのでしょうか？

A 許可申請では、他家に比べて要件が厳しく、建物による近隣への影響を既存と比べて十分に配慮した計画とすることが必要となります。

### ③ 学校施設の必要諸室の考え方について

教室や職員室など、学校に必要な諸室について説明を行いました。また、教室と廊下の間に変異を持たせ、主体的な学びを促す普通教室やグループワーク・多様な学習活動を図るラーニング commons について説明しました。

Q 生徒は、放課後も忙しいがラーニング commons をいつ使うのでしょうか？

A 授業の中で使っていく予定。学校でも検討を行っている。

Q 現状、学年ごとに分けて指導を行っていると思う問題ないでしょうか？

A 今後の学校では、ラーニング commons や階段を使った授業など教室の枠を超えた学習が欠かせないものになってくると思われる。

Q 地域の人でもラーニング commons を使えるのでしょうか？

A 地域の人でも活用できるよう、利用時間、ゲートなどセキュリティの仕方を含め、今後検討を行っていく。

### ④ 事例紹介について

現在、渋谷区で計画が先行している神南小学校の事例をイメージ図を用いて紹介しました。学校の中心にラーニング commons を設置し、小学校の児童の成長過程に即した設えなどを説明しました。

### ⑤ 意見交換

意見 Nゲージ（鉄道模型）は是非残してほしい。

意見 すばらしい校舎だけでなく、それに見合う教育環境となるよう、教職員等の増員等も検討していただきたい。